

『平成の楽市楽座』

減税アイチ 減税ナゴヤ

大村 秀章

I 真の「独立」で今こそ世界と闘える愛知・名古屋を

○世界で経済成長を続け、豊かで活力ある社会を築いているのは、すべて「リージョナル・ステート」（地域国家）です。クルーグマン・藤田の空間経済学を引用するまでもなく、グローバル化が進む現代では、ヒト・モノ・カネが集積する大都市が生まれることは理論的に明らかです。まして人口減少社会に突入した日本にあっては「国土の均衡ある発展」はもはや幻想に過ぎません。財政的に「面」として国土全体を発展させる余力は日本にはありません。むしろ主要都市ごとに権限を移譲・集中し、大都市が自ら創意工夫で稼いで発展し、その豊かさの恩恵を周辺地域へ及ぼし、結果として国家全体の経済成長を牽引するというのが世界的な潮流となっています。

○躍進する中国。故鄧小平氏が1979年に打ち出した改革開放政策から約30年。深圳、上海など経済特区を点として設け、発展を集中的に促すことで、周辺地域の経済成長を生み出しました。このモデルが大連、天津、広州などの沿海部、さらには西部大開発へと広がり、中国全体の総生産を引き上げることに成功しました。1992年の開発以前、原野が広がるばかりだった上海・浦東地区は今や、世界の成長センターに変貌をとげたではありませんか。

○即ち、大都市を中心とする広域エリアが国際的な競争に打ち勝つようグローバル企業を誘致・育成し、自由な経済・金融活動を通じて、成長を達成し財政を豊かにする。この財政力を背景に、広域エリアに住む地域住民の教育、医療、福祉などの住民サービスを充実するというシステムを構築する必要があります。

○日本では、東京エリア、大阪エリア、名古屋エリアの3大都市圏に広域連合的なモデル地域を立ち上げ、道路、鉄道、港、空港、IT（情報通信）網などの社会インフラを集中的に整備する。そこで生まれた付加価値を周辺地域へ及ぼし、日本全体を潤す。日本の活力を再生するには、この方策しかないと確信します。

そこで宣言します。
今こそ、真の「独立」で
世界と闘える愛知・名古屋をつくることを。

○愛知・名古屋を国の一律・横並びの規制・制度の軛（くびき）から解き放ち、日本で最も進んだ自由で競争を促す制度・政策を導入します。あわせて最も理想的な県土、愛知・名古屋の絵姿を描いて集中的な投資を行います。そして日本はもとより、全世界からヒト・モノ・カネを呼び込みます。

○愛知県の人口は約741万人とスイス（750万人）やブルガリア（750万人）、イスラエル（710万人）などに相当。域内総生産（GDP）も35兆円～40兆円であり、外国為替相場の設定の仕方にもよるが、スイス（5000億ドル）、スウェーデン（4050億ドル）、オーストリア（3800億ドル）などに匹敵する規模があります。国家として独立するに十分な経済力を有する「愛知・名古屋」のインディペンデンス・デザインを今こそ描き、集中的な投資を断行するのです。

○具体的には、外交・防衛・通貨・為替・年金など国全体の統一性を要求される特定分野を除き、税財政、経済政策、社会基盤整備、教育、医療、農政などすべての政策を地域主権の名の下に独自に決定し実行します。税制も国の運営上必要となる応分の負担は上納するが、それ以外の方は独自で決定。課税自主権を確立した上で世界からヒト・モノ・カネを呼びこむ政策を実行します。

○愛知・名古屋には、モノ作り産業を筆頭に、世界に誇れる産業力、経済力、文化力、地域力が蓄積しています。こうしたアイチカ・ナゴヤカを世界に発信・全開し、たとえ日本が長期低迷に沈んでしまっても、愛知・名古屋だけは生き残る戦略をとるのです。

Ⅱ 『中京都の創設』～愛知・名古屋の合体

○改革にとって重要なのはスピード。グローバル化が急速に進む世界との競争に打ち勝つには、政策の意思決定と実行のスピードを一気に引き上げることが肝要です。強力な政策をタイミング良く果敢に断行するには、強力で唯一の司令塔が必要なのです。

○このため愛知県・名古屋市を合体して「中京都」を創設します。都市のエリアを愛知県全体に広げ、人口740万人、域内総生産（GDP）40兆円の固まりとし、日本の顔として世界と闘える基盤を築くのです。

Ⅲ 『平成の樂市樂座』

○織田信長は、時代に全くあわなくなった中世の権威・制度に挑戦し、これを打ち破りました。その象徴的事業が、旧来の既得権益を全面的に否定した「樂市樂座」です。全国からヒト・モノ・カネが集まり、空前の繁栄をもたらしました。この経済力が秀吉、家康の天下統一、あるいは松平、前田、池田、浅野、蜂須賀、山内諸氏ら幕末に至る尾張・三河出身者の全国的隆盛の原動力となったのです。

○今こそ、県・市合体の中京都によって強力な司令塔を設け、国から独立し、これまでの既得権、因習、しがらみに囚われない理想的な経済・産業活性化策を迅速に実現。これをもって「平成の樂市樂座」とします。すべての企業および経済活動の自由を保障し、広義の税負担を軽減することで優秀な人材、高度な技術に裏打ちされたモノ、豊かなカネを呼び込みます。その活力で付加価値を生み、富を蓄積し、自由な企業活動を支える財政基盤を築きます。

**「平成の樂市樂座」の第一弾として、
愛知県民税の10%減税を断行します。**

これを呼び水に、あらゆる経済主体を域内に誘致するのです。個人と法人とでバランスのとれた体系とします。減税財源には当然、県・市合体の合理化の果実を充てるのは言うまでもありません。これこそが今の閉塞感が充満した日本社会・経済にとって、最大で最速の景気対策と確信します。

Ⅳ 『日本一愛知の会』設立

○以上の政策を強力に推し進め着実に具体化していくために、同志と地域政党「日本一愛知の会」を起ち上げます。「愛知・名古屋の真の独立」、「中京都の創設」、「平成の樂市樂座」、「県民税10%減税」どれもこれも実現にはいばらの道が待っています。しかし、越えられない山はありません。愛知・名古屋を変え、日本を変える熱い思いを持つ同志と燃え上がる志の炎でぶつかっていきたいと思います。

この「日本一愛知の会」を拠点として、同志の皆さんと知事選から始まる一連の統一地方選を闘い抜き勝利を目指したいと存じます。

V 愛知県民の皆様へ

○私は今、日本と日本経済に対する大いなる危機感を抱いています。このままでは、日本経済も愛知の経済、モノづくりも沈没してしまう。

今こそ、「平成の楽市楽座」で全世界からヒト・モノ・カネを呼びこみ、愛知・名古屋を再生しなければと。

○日本を、愛知・名古屋を今一度世界と闘える力強い国・社会・経済とするため、私は皆様とともに起ち上がりたいと存じます。

これを実現するためには、自分自身も身を安全なところに置くのではなく、自らリスクを取って自分もプレーヤーとなって取り組まなければならないと考え、今回の決断に至りました。

今こそ志を同じくする同士と大いなる闘いの一步を踏み出したい。

○私は愛知県民の皆様に関かけたいと思います。

愛知・名古屋は今のままでいいのでしょうか。

日本は今のままでいいのでしょうか。

今こそ変えませんか。日本のどまん中から日本を変えませんか。

愛知・名古屋を変え、日本を変えませんか。

大村・河村とともに、庶民革命。

名古屋革命、愛知革命やりませんか。

一緒に起ち上がりませんか。

そして 2月6日を輝かしい未来に向けての愛知・名古屋の真のインディペンデンス・デイとしませんか。

愛知県民の皆様の絶大なるご理解とご支援をお願い申し上げます。

以 上